

マツダと一緒に沖縄を楽しもう！

TAKE FREE!
ご自由にお取りください

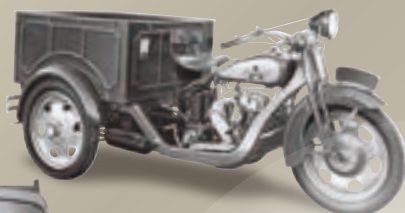
mazda

EVOLUTION × DEEPENING × FRIENDS

シンカ!

vol.08 夏
2025

マツダ号「DA型」



マツダ初の
ロータリーエンジン搭載車
コスモスポーツ



T1500



サバンナRX-3



デミオ



サバンナRX-7



ユーノスロードスター(NA型)



アンフィニRX-7



ロードスター(NC型)



「'91 ル・マン24時間耐久レース」総合優勝 マツダ787B



RX-8



ロードスター(ND型)



CX-3



CX-80



沖縄マツダ販売株式会社
創立75周年

沖縄マツダ販売株式会社

FM-OKINAWA
マツダZOOM ZOOM HOUR



沖縄マツダ公式
Instagram



沖縄マツダ公式
ホームページ



1980～86

商品ラインナップの充実、
世界の自動車メーカーとしての発展

- 1984年5月・マツダ株式会社社名変更
- 11月・山本健一社長就任
- 1982年12月・4代目「カペラ」が1982-1983日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞
- 1980年12月・5代目「ファミリア」が1980-1981日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞
- 1979年12月・フォード社と資本提携
- 1978年3月・初代「サバンナ RX-7」発売
- 12月・山崎芳樹社長就任
- 1977年3月・本社を那覇市泊より、浦添市勢理客の浦添支店へ移す
- 10月・初代「コスモ」発売
- 1975年1月・アルファベットの newborn 標を導入 (mazda タイプ)
- 1972年4月・美里村美里1301番地に中部ショールーム開設。中部の販売拠点強化を図る
- 1971年9月・初代「サバンナ」発売
- 11月・松田耕平社長就任
- 1970年5月・初代「カペラ」発売
- 10月・浦添市勢理客456番地に浦添支店新設
- 1967年5月・マツダ初のロータリーエンジン搭載車「コスモスポーツ」発売



サバンナRX-7

mazda

'mazda'タイプの商標



コスモスポーツ



「m」をモチーフにしたシンボル

1960～79

乗用車の量産開始、
ロータリーエンジンの開発

- 1963年10月・初代「ファミリア」発売
- 1966年5月・初代「ボンゴ」発売
- 8月・初代「ルーチェ」発売
- 1967年5月・マツダ初のロータリーエンジン搭載車「コスモスポーツ」発売
- 1970年5月・初代「カペラ」発売
- 11月・松田耕平社長就任
- 1971年9月・初代「サバンナ」発売
- 1972年4月・美里村美里1301番地に中部ショールーム開設。中部の販売拠点強化を図る
- 1975年1月・アルファベットの newborn 標を導入 (mazda タイプ)
- 10月・初代「コスモ」発売
- 1977年3月・本社を那覇市泊より、浦添市勢理客の浦添支店へ移す
- 1979年12月・フォード社と資本提携
- 1980年12月・5代目「ファミリア」が1980-1981日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞
- 1982年12月・4代目「カペラ」が1982-1983日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞
- 1984年5月・マツダ株式会社社名変更
- 11月・山本健一社長就任



カタカナ書体の商標



3本線タイプの商標



東洋コルク工業の登録商標

1920～59

自動車メーカーとしての胎動、
3輪トラック・工作機を主に生産

- 1920年1月・東洋コルク工業株式会社として設立
- 1921年3月・松田重次郎、東洋コルク工業社長に就任
- 1927年9月・東洋工業株式会社に改称
- 1950年6月・那覇市牧志町(桜坂)に南洋貿易株式会社(社長、宮城善正)を設立。東洋工業株式会社との間で貿易
- 1951年12月・松田恒次(つねじ)社長就任
- 1959年1月・沖縄マツダ販売株式会社に社名変更
- 7月・「m」を图案化した新マークを採用

OKINAWA MAZDA HISTORY

マツダと
沖縄マツダの
あゆみ



おかげさまで
創立75周年



沖縄マツダは今年、おかげさまで創立75周年を迎えます。創立は昭和25年6月(1950年)に遡り、那覇市壺屋町に設立された南洋貿易株式会社を前身に、東洋工業株式会社(現マツダ)との貿易から企業スタートを切りました。その後、昭和28年8月(1953年)に沖縄マツダ販売合資会社に商号を改め、輸入一号車として空冷三輪小型トラックを初導入したのを皮切りに、今日まで沖縄でマツダ車を販売し、県民の皆さまにご愛顧いただいています。マツダと沖縄マツダのこれまでの歩みを年表と懐かしい写真で振り返ります。

※赤字は沖縄マツダに関するものです

1987～99

環境・新技術への取り組み
Zoom-Zoomなクルマづくり

- 1987年12月・古田徳昌(のりまさ)社長就任
- 1989年8月・マツダの新チャネル参入のため、「株ユーノス沖縄」を本社内に設立(沖縄マツダ100%出資)
- 9月・ユーノスロードスター」発売
- 1991年5月・「センチア」発売
- 6月・第59回ル・マン24時間耐久レースで「マツダ787B」が日本車史上初の総合優勝
- 12月・和田淑弘(よしひろ)社長就任
- 1992年2月・「ユーノス500」発売
- 1993年8月・「ランティス」発売
- 1996年6月・ヘンリーD.G.ウオレス社長就任
- 8月・初代「デミオ」発売
- 1997年6月・新ブランドシンボルを制定
- 1999年12月・マーク・フィールズ社長就任
- 2000年7月・「ロードスター」が世界で最も多く生産された2人乗り小型オープンスポーツカーとしてギネスに認定
- 2001年2月・日本初、インターネットを使った受注生産開始
- 2002年4月・新ブランドメッセージ「Zoom-Zoom」を展開
- 5月・初代「アテンザ」発売(同年2003RJCカー・オブ・ザ・イヤー受賞)
- 6月・ルイス・ブリス社長就任
- 2003年4月・「RX-8」発売(同年2004RJCカー・オブ・ザ・イヤー受賞)
- 8月・井巻久一社長就任
- 10月・初代「アクセラ」発売
- 2004年6月・「ペリサ」発売
- 10月・RX-8水素ロータリーエンジン車の公道走行を開始
- 2005年2月・創業85周年を機にマツダミュージアムを全面リニューアル
- 8月・3代目「ロードスター」発売(同年20052006日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞)
- 9月・那覇市国場に国場店オープン、南部地域の強化が図られる
- 2006年12月・「CX-7」発売
- 2007年7月・「デミオ」をフルモデルチェンジ(同年2008RJCカー・オブ・ザ・イヤー受賞)
- 2008年1月・2代目「アテンザ」発売
- 3月・「Mazda2(日本名:デミオ)」が2008世界カー・オブ・ザ・イヤー受賞
- 7月・「ピアント」発売
- 11月・山内孝社長就任
- 2009年3月・世界初のハイブリッドシステム搭載水素ロータリーエンジン車「プレマシーハイドロジェンREハイブリッド」のリース販売を開始
- 6月・2代目「アクセラ」発売
- 2010年7月・「プレマシー」をフルモデルチェンジ
- 9月・「動き」を表現した新デザインテーマ「魂動(souji) - Soul of Motion」を発表
- 10月・次世代技術「SKYACTIV」を発表



プレマシー
ハイドロジェン
REハイブリッド



沖縄マツダ国場店



3代目
ロードスター
(NC型)



RX-8



初代アテンザ



マツダ787B



ユーノス
ロードスター
(NA型)



新ブランドシンボル

OKINAWA MAZDA 思い出のフォトギャラリー



2011年 2月	「マツダロードスター」が累計生産90万台を達成、ギネス記録更新を申請	
2011年 6月	初のSKYACTIV搭載モデル、新型「マツダデミオ」を発売	
11月	マツダの新型エンジン「SKYACTIV-G 1.3」が「2012年次RJCテクノロジー・オブ・ザ・イヤー」を受賞	
2012年 2月	新型クロスオーバーSUV「マツダCX-5」を発売 (同年2012・2013日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞)	
10月	「デミオEV」のリース販売を開始	
11月	3代目「アテンザ」を発売(2014)RJCカー・オブ・ザ・イヤー受賞	
2013年 6月	小飼雅道社長就任	
10月	3代目「アクセラ」を発売	
2014年 9月	4代目「デミオ」を発売(同年2014・2015日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞)	
2015年 2月	「マツダCX-3」を発売	
5月	4代目「ロードスター」を発売(2015・2016日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞)(2016年ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー受賞)(2016年ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー受賞)	
9月	北谷町美浜に、沖縄初マツダの新世代店舗 北谷店 オープン	
2016年 2月	「CX-9」フルモデルチェンジ・生産開始	
4月	「CX-4」世界初公開	
7月	マツダ、新世代車両運動制御技術「SKYACTIV-VEHICLE DYNAMICS」発表	
		4代目デミオ(MAZDA2)
		初代CX-5
		4代目ロードスター(ND型)
		沖縄マツダ北谷店

2016年 12月	新型「マツダCX-5」を発表	
2017年 7月	浦添店(本社・部品営業部)を、新世代店舗へ建替、グランドオープンフェアを実施する	
8月	次世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」を発表	
12月	新型「マツダCX-8」を発売	
2018年 6月	丸本明社長就任	
2019年 5月	新世代商品第一弾「MAZDA3」を発売	
10月	新世代商品第二弾「MAZDACCX-30」を発売	
12月	新世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」搭載車を発売	
2020年 1月30日	マツダ創立100周年	
6月	沖縄マツダ創立70周年を迎える	
10月	新型「MAZDAMX-30」を発売	
2021年 1月	マツダ、初の量産電気自動車「MAZDAMX-30EV MODEL」を発売	
10月	新世代店舗 知花店リニューアルオープン	
2022年 9月	マツダCX-60を発売	
2024年 10月	マツダCX-80を発売	
2025年 6月	沖縄マツダ創立75周年を迎える	
		MAZDA3
		MX-30
		CX-80
		SKYACTIV-X
		沖縄マツダ知花店
		沖縄マツダ浦添店

3



4



2

1.あんしん総合流通センターのエントランスに展示されている三輪トラック(T1500)の前に立つ安里繁信さん。「若い頃はマツダRX-3が憧れでした」2.創業者の安里信秀さん(現・シンバホールディングス取締役相談役)と当時の三輪トラック(提供写真)3.2023年に完成した物流拠点施設「あんしん総合流通センター」4.グループ企業「株式会社宣伝」で使用しているMAZDA2



1

原点はマツダの三輪トラック

シンバホールディングス株式会社
代表取締役会長兼CEO 安里繁信さん

浦添市牧港に2023年完成した、県内最大級の規模を誇る物流拠点施設「あんしん総合流通センター」のエントランスには、ひととき目を引くクラシックなマツダの三輪トラックが展示されています。

この車両は、今年創業60周年を迎えた総合物流業「株式会社あんしん」の創業主・安里信秀さんが20代の頃に手に入れ、同社の物流業の礎となった小型トラックの一回り大きいモデル。創業30周年を記念して信秀さんに贈られた特別な一台です。

30周年のタイミングで、信秀さんにプレゼントをしたいと考えていた矢先に「創業時のトラックに似た車両が(うるま市)具志川の解体屋にあると聞き、購入しました。そう振り返るのは、信秀さんの長男で、「あんしんを含むグループ企業の持株会社、シンバホールディングスの代表取締役会長兼CEO・安里繁信さん。三輪トラックは、グループ企業の「車両館」で丁寧に板金修理し、走行可能な状態にレストアされました。

「最初に井戸を掘った人の心意気のようなものは、語り継いでいく責任があると思うんです。トラックには「何を大事にするべきか」を再確認する意味と、感謝の気持ちが込められています。」



琉球政府時代の創業当初、「相棒」である三輪トラックのハンドルを握り、がむしゃらに働いた信秀さん。荷台に過積載すると前輪が浮き、カーブを曲がるのに苦労した——そんなエピソードも繁信さんたちに語っていたそうです。

受け継ぐ創業の精神

1965年、信秀さんが三輪トラック1台から始めた運送業は、やがて沖縄を代表する企業に成長を遂げました。グループ全体で100年企業を目指しています」と今後の展望について語る繁信さん。100年という目標に向かって走り切ることが、「創業者への恩返し」にもなると意欲をにじませます。

創業以来、沖縄マツダとのパートナーシップは続き、両社とともに歴史の節目を迎えました。「沖縄マツダさんの歴史そのものが、沖縄の復興の歴史。沖縄マツダさんとの出会いがあり、今の私たちがあります。それを、これからも語り継ぎ、原点として大切にしていきたいと思っています」と話してくれました。



右.ハンドル回り。中心には60年代のマツダのロゴが見える 中.幌(ほろ)式の屋根が特徴 左.引き上げ式のサイドウィンドウ。創業当初のトラックは一回り小さいモデルだったそう。「マツダのロゴを眺めると、エールを送られているような気持ちになります」(繁信さん)



沖縄マツダのスタッフが、愛車と走ってきた人生を振り返る新コーナー。
マツダ車以外のクルマも含め、クルマ愛を語ります!!

Special

私の愛車History



ボンゴフレンディ(仲本さんが持参したカタログより抜粋)



ボンゴフレンディを販売していた頃の売場の様子

カーさんはエンジンをボンネットに収めて床を低くしていたんですけど、この車はシートの位置が高いので、見晴らしがすごく良かったんです。エンジンが車体中心に近いレイアウトで、バランスも良かったですよ。

■家族とすごした車内
仲…ボンゴフレンディは、結局14年くらい乗ったかなあ。3列シートなので、対面したり、一部のシートを折りたたんでテーブルにして食事をしたり、フルフラットにして子どもたちを寝かしつけることもできました。長男と次男はこの車で仮免許を取った後の練習もやりました。三男は新垣さんと同じ年なんですけど、上の子と年が離れているもんだから、休みの日に瀬長島に行ったりもしていましたね。思い出してみると、使い勝手はそんなに良い感じでもなかったかもしれない。でもオーソドックスな車だったんで気に入っていましたね。ボンゴフレンディの終売後、ピアンテなど他のファミリーカーに乗り換えていただいたお客さまが多かったのですが、「あれが良かったなあ。また出さなかね〜」とお声をいただくことが度々ありましたよ。

■おじいちゃんとMT車
新…私の免許取得は18歳の時です。おじいちゃんがきっかけでマニュアルに乗りたくな、とずっと思っていました。幼稚園生くらいの時に、おじいちゃんの運転する軽トラの助手席に座って、ギアチェンジの動作を見ているのが好きだったんです。

仲…自練はすんなり卒業できました？
新…自練では何回か延長したりと苦戦しました。その後、短大への通学のために乗ったのはマニュアル車じゃなくて、ダイハツのムーヴです。親戚からのもらい物でした。最初は運転自体が不慣れで通学が不安でした。なので入学してからしばらくの間は、おじいちゃんと一緒に乗っていて、おばあちゃんもついてきて(笑)。私が運転して通学するんですけど、学校になったら「授業だからバイバイ」って。そしたらおじいちゃんが車を運転していったん家に帰るんです。そして授業が終わる時間にまた来てくれて、



15台以上を乗り継いだベテラン社員と
入社2年目のロードスターオーナーが
ゆるっと車トーク

■初めてのマツダ車は

仲本尚(以下、仲)…小さい頃から車が好きで、どのメーカーの何というクルマとか、車種も全部覚えるくらいでした。運転免許取得は18歳の時。車も高校卒業する時には買っちゃいましたね。ちょうど大学に通う、というタイミングでもあったんですけど、もともと実家に車がなかったんで、車ほしいな、という気持ちも強かったです。当時流行っていた車は、マツダのファミリアとトヨタのスターレットのKP61。どちらを買うか迷ったんです。ファミリアはサーフボードを載せるというスタイルが人気だったんですが、自分はちよつと違うものに乗りたいな、ということでした。でも半年で使用不能になりました。運転ミスで…(笑)

新垣優(以下、新)…え〜っ！
仲…その後、日産のパルサー、トヨタのハチロクと乗り継い

で、沖縄マツダへの入社日もハチロクで出社しました。でもまあ、半年か1年くらいで「この車に乗って営業できんよね」って話になって、浦添店の展示場にあったファミリアを契約しました。マツダ本社の70周年を記念した特別仕様車でした。

■ボンゴフレンディ

仲…その後は営業車も兼ねながらファミリアとデミオを3台ずつくらい乗り継いで、家族ができたタイミングでボンゴフレンディを買いました。今日は2000年当時のレアナカタログも持って来ました(写真参照)。

新…私まだ生まれてないです(笑)

仲…ボンゴフレンディも特別仕様車で色も特別色。当時最新のDVDナビもついてました。この車はキャブオーバーバーといって、シートの下にエンジンがあるんですよ。だから、床が高いんですね。他のメー



仲本さんの愛車はMAZDA3のセダン。「在職中、最後に乗る車だと思って選びました。やっぱり黒ですよ、セダンは」と話します

5月29日に広島東洋カープ沖縄協力会の総会があり、沖縄商工会議所の会員らが集まって昨季の報告と今季の予定が発表されました。うちも知花に販売店があるので20年くらい参加しているんですが、そのご縁で皆さんマツダ車を会社に導入してくれたり、うちも春季キャンプの時はクルマを提供したりしてお互いに助け合っています。今年から協力会にデビューした沖縄市の花城大輔市長とは30年来の知り合いですが、あいさつもソツなくこなしていましたね。今年のカープのキャッチフレーズは「遮二無二」。2023年は「がむしゃら」、24年は「しゃ！」（←勝者、がむしゃら、しゃにむに、ヨッシャのしゃ）でしたが、今年は2位じゃダメなんじゃ！ 1位に向けて滝を登る鯉のごとく邁進してもらいたいので。

沖縄マツダ販売の社長、
宮里豊が語るカーブ愛

鯉に恋 in love with CARP

2025年のキャッチフレーズは「遮二無二」。
2位はない、1位に向けて邁進じゃ！

北部はジャングリアで盛り
上がってるが、クルマの売れ
行きは関係なさそうじゃ…
(※ウチナアンチュです)



【整備職(エンジニア)募集】

沖縄マツダでは、整備職(エンジニア)を新卒採用・経験者採用ともに募集中。興味のある方は、沖縄マツダのHPで詳細をご確認いただき、採用担当者に直接お問い合わせください。

雇用形態 正社員

勤務地予定 沖縄県内各店舗

応募資格 国家1級または2級整備士資格取得者及び取得予定者
※国家3級整備士資格取得者は相談に応じます。
※新卒採用は2026年3月卒業見込者及び3年以内既卒者。
※経験者採用は最終学歴や年齢を考慮します。

必要免許 普通自動車運転免許
(AT限定不可。入社までに限定解除であれば可)

詳しくは沖縄マツダホームページで▶



沖縄マツダで
働こう！

あなたも一緒に
働きませんか？



新垣優さんのロードスターRF。
夜はオープンにして走るのが心地
良いそう



ロードスターを購入するまで乗っていた
ダイハツのムーヴ(提供写真)

私が運転して帰る。そんなことをやってみましたね。ちょっと過保護だったかもしれない(笑)
仲…ほんわかする話だね。教官がおうちにもいたんだ(笑)
■ロードスターオーナーに
新…現在乗っている車はロードスターRFです。昨年12月に納車されました。この車を選んだきっかけは、就活のタイミングで「頭文字D」にハマっていたことです。作中だと、RX-7のFCが結構好きなので、乗れたらいいなあと思ってたんですけど、そういう車は自分で整備もしないといけないから手が出せませんでした。それで、現行のラインアップで考えたらスポーツタイプはロードスター一択で

した。ただ、オープンカーはちょっと目立つなあ、という気持ちもあったので、ぱっと見クーペにも見えるRFを選んだんです。
仲…私が入社した時は、FCがまだ販売してたんですよ。今思えば買っとけばよかった(笑)。「スポーツカーは若い時に乗るもんだよ！」ということ、ずっと社員の皆さんに推しています。
新…愛車の気に入ってるポイントは何イルですね。純正はシルバーのラインが入ってるデザインだったんですけど、真っ黒のボディにシルバーの線はあんまり合わないかなあと思って、黒のBBSホイール(純正オプション)に換えて、色を統一しています。
仲…センス良いなあ。ベストな選択ですよ。

■笑顔になる車

新…しばらくAT車に乗っていたので、ロードスターが納車された時は、緊張感が強かったです。この車買っちゃった…、みたいな(笑)。でも、1カ月もしないうちに楽しさが勝るようになりました。仕事終わって、ちょっと遠回りし

て帰る、なんてこともするようになった。車を降りたくなくなるんです。
仲…オーナーだからわかる感覚だね。お客さまからも「遠回りして帰る」「自宅について車庫に入れても、車から降りずにずっと音楽を聴いてる」というお話しはよく聞きますね。
新…乗ったら楽しさが分かる車。それがロードスターだと思います。

仲…ほんとに笑顔になるよね。エンジンの音も、回転数がかかるのに合わせて変わっていったり、シフトチェンジした時のシフトフィールとか、加速感も良かったりね。ほんとにいいよね。買っちゃおうかな俺も！



ホイールはボディカラーに合わせてBBSホイールに換装。より引き締まったルックスに！

車検／点検予約をもっと便利に！ 簡単に！

オンライン予約

点検予約で、こんなお悩みありませんか？



お店の営業時間に
電話ができない…



電話だとすぐに
要望が思いつかない



いつ予約したか
忘れた…



オンライン
予約なら
24時間
365日予約
できます。



落ち着いて
要望を記入
できます。



ご来店日時を
メールで
お知らせ
します。

愛車のお困りごと、試乗のご要望などお気軽にご相談ください。

予約は簡単！ ③ ステップ

STEP
1

メールが届く。
CLUB MAZDAの
予約画面へアクセス



STEP
2

ご希望の日時を選択



STEP
3

ご要望を入力。
入力内容を確認して
予約完了！



CLUB MAZDAの車検／点検予約、ぜひご利用ください。

ご利用はスマホ・タブレット・パソコンから

CLUB MAZDA
のご紹介は
こちら



CLUB MAZDAの
車検／点検予約
動画はこちら



ご利用にはCLUB MAZDAへの登録と販売店連携手続きが必要です。詳しくは販売会社へお問い合わせください。